

# e 手仕事図鑑 指導要領

平成 29 年 4 月改訂

富山大学名誉教授

山西潤一

## 1. はじめに

私が、この手仕事図鑑への関わりを持ったのは、石浦さんという富山の女性が描いた1枚の絵でした。そこには、黙々と手仕事に打ち込む職人の姿が生き活きと画かれていたのです。絵とそこに書かれている簡単な文章を読んで、3つのことに感動しました。一つは、職人の仕事に打ち込む表情を實に見事に捉え、表現している絵の素晴らしさです。二つは、絵のところどころに書き加えられた日本語表現です。仕事に打ち込む職人さんの姿を見て、石浦さん自身が感じたこと、あるいは、職人さんへのインタビューを通じて得た情報を、心温まる的確な表現で表されていることです。インタビューアとしての石浦さんの豊かな人間性を垣間見たように思いました。三つ目は、手仕事に打ち込む職人さんという仕事の仕方、すなわち手仕事という働き方そのものです。文部科学省でも経済産業省でも社会人基礎力という言い方のなかで、情報活用能力やコミュニケーション能力の必要性を訴えています。企業への就職はもとより、自立した社会人としての基本的能力としてそのような力が必要だからです。勿論、これらの能力が重要なことは誰しも理解していますが、これからの多様な社会にあって、より重要なものは、自己責任で自らの生きる道を切り開く、個性あふれる生き方や職業観ではないかと思うのです。

政府の諮問機関である「21世紀日本の構想懇談会」最終報告書（2000年3月）の中に以下のような記述があります。中略・・・所属する場の和を第一に考える日本人の傾向は、先進国のなかでは貧富の差が少なく、比較的安全性の高い国を生み出すという利点を持った。しかし、個人の能力や創造力を存分に発揮させる場としては、むしろ足かせとなってきた。グローバル化や情報化の潮流の中で多様性が基本となる21世紀には、日本人が個を確立し、しっかりとした個性を持っていることが大前提となる。このとき、ここで求められている個は、まず何よりも、自由に、自己責任で行動し、自立して自らを支える個である。自分の責任でリスクを負って、自分の目指すものに先駆的に挑戦する「たくましく、しなやかな個」である。・・・

ここに示す手仕事図鑑では、そんな個性豊かな働き方で、生き活きと仕事に打ち込む職人の姿が見て取れます。そして、活動に参加する子どもたちが、そこで石浦さんが感じたように、多様な職業や働き方があることを知ると同時に、仕事に打ち込む手仕事師の夢や志に共感し、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感を持って学んで欲しいと思います。

## 2. 目的を明確にする

e 手仕事図鑑を活用した体験学習には、キャリア教育としての目的と情報教育としての目的が混在します。また社会活動として行うことを考えると、異学年の子どもの集団活動としての意義、すなわち、集団活動での役割分担、協働作業による助け合いや協力の意識なども考慮する必要があります。活動を企画するに当たっては、それぞれの教育目的に沿った活動になるように配慮することと、活動の結果として目標が達成されたかどうかについても、教育目的に沿った評価が行われることが必要です。

### キャリア教育としての目的

キャリア教育における体験活動の意義については、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月）で、次のように述べられています。

体験活動等には、職業や仕事の世界についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待され、事実、実施したほとんどの学校から、こうした面での大きな成果が報告されています。

―― 職業と生活の分離が進み、子どもたちが生き生きと働いている大人の姿を見ることが少なくなった今日、子どもたちは、仕事は我慢してやらなければならないもの、苦労するものといった意識だけを持ちがちであるが、職場体験やインターンシップ等を通して、やりがいを持って仕事をしている人たちから直接話を聞いたり、世の中にはこんな仕事がある、仕事にはこんなやりがいや面白いことがあると教えられたりすることは、子どもたちに新鮮な驚きと発見をもたらし、職業ひいては大人社会への認識を改めるきっかけになっている場合も少なくありません。体験を通して得られるこのような自己への期待感や大人との信頼関係は、子どもたちが抱えている不安を解消し、次の段階に踏み出していくエネルギーの源となるものです。

体験活動等には、このほか、学校と社会をつなぐという重要な役割があります。一面的な情報に流され、社会の現実を見失いがちな現代の子どもたちに、現実に立脚した確かな認識をはぐくむ上でも、体験活動等の充実は欠かすことのできないものです。

小学校段階では、進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期として位置付けることができます。日常生活の様々な活動を通して、「大きくなったら何になりたいか?」「どんな人になりたいか?」というような「夢」「希望」「あこがれ」を持ち、児童が自らの将来の生き方について考えることができるようにすることが大切なのです。

また、学校教育と社会教育の連携も必要です。学校教育での学習内容は国が示す学習指導要領に基づいて行われます。平成20年3月28日、新しい小学校学習指導要領が告示され、平成21年度からの移行措置を経て、平成23年度から完全実施されています。新しい学習指導要領では、従来以上に小学校におけるキャリア教育の推進が求められています。



文部科学省「キャリア教育推進の手引き」平成20年増補版より引用

具体的な活動としては、以下のような目標設定が考えられます。

- 1) 手仕事の内容について紹介することができる
- 2) 手仕事をしている人の、仕事への夢や希望を聞いて、働くことについて考える
- 3) 手仕事をしている人の、努力を知り、目標に向かって努力する大切さを理解する
- 4) 自分の好きなこと、得意なことと将来の職業について考える

### 情報教育としての目的

情報教育は、情報化時代を生きる力として、適当な情報手段を用いて、多くの情報の中から必要な情報を収集し、収集した情報をまとめ、他者に伝える力、いわゆる情報活用の実践力を育てること、コンピュータやインターネットなどの情報通信手段が、どのように情報化を支えているか、特にブラックボックス化したコンピュータやネットワーク技術などについて理解する、情報の科学的理解を育成すること、日常化したインターネットなどの光と影を理解し、情報モラルなど、情報社会に参画する態度を育成することの、大きく3つの能力育成がその目的です。

今回の体験学習においては、上述の目標のうち、第一番目の情報活用の実践力につながる能力育成が中心になります。

具体的な活動としては、以下のような目標設定が考えられます。

- 1) 取材した手仕事の内容を、写真、文書表現を通して的確に伝えることができる
- 2) 取材した手仕事で働く人の夢や希望を的確な表現で伝えることができる
- 3) 様々な手仕事を比較し、それぞれの苦労や思いを比較して表現できる
- 4) 自分の考えを的確に表す写真表現ができる
- 5) 取材メモを確実に取ることができる

### 協働体験学習としての目標

社会学習として体験学習を実施する場合は、同学年又は異学年でのグループ学習になることが考えられます。グループ学習の場合は、それぞれの写真や文書表現を比較し、より伝えたい内容にふさわしいものを協働で作成します。ここでは役割分担と共同作業を通して協調性や社会性の育成が期待されます。

具体的には、以下のような目標設定が考えられます。

- 1) グループでの役割分担と同時に協力してグループの課題に取り組む
- 2) 互いの情報を比較検討してより良いものにする協働協調作業が行える

### 3. カリキュラムと実施計画をたてる

体験学習を行う時間を考えて、実施計画を作成する必要があります。

体験学習当日の実施計画は勿論のこと、事前学習、事後学習があれば、それらを通した全体のカリキュラム、実施計画を作成することが必要です。体験学習活動が何日かに渡る場合はそれらも含めての計画になります。

この実施計画は、体験活動の担当者だけではなく、活動の協力者、支援者などで共有しておく必要があります。お互いが活動の目的や活動内容を知っていることで活動がスムーズに行えると同時に、活動の質も上がるからです。

具体的には、以下のような項目からなる実施計画を作成します。

#### ・ 活動：

事前学習：体験学習への興味関心を深めると同時に、体験学習へ出かけるときの注意点なども指導する

体験学習1：手仕事の現場を訪問し、そこで働く人に、仕事の内容や仕事への思いをインタビューする

体験学習2：上記と異なる手仕事の現場を訪問し、同様の活動を行う

事後学習：体験活動の感想やインタビューの結果を、友達に分かるように手仕事図鑑としてまとめ、発表会を行う

- ・ 目標と時間：活動の目標と活動に必要な時間を書く
- ・ 活動内容：活動内容を具体的に書く
- ・ 支援・教材：担当者だけでなく、体験活動をさせる補助者などに行って欲しい支援活動を書く。また、活用する教材があれば記入
- ・ 指導上の留意点：活動をさせる上での留意点を具体的に書いておく
- ・ 評価の観点と方法：思考・理解力、関心・意欲・態度、表現の能力、などの大きな観点で、具体的な評価とその方法について書いておく
- ・ 教科学習とのつながり：体験活動は社会教育の一環として、PTA や地域の公民館活動、その他、NPO などが主催して行われることが多い。この場合であっても、地域の学校の理解と協力のもと、学習指導要領に掲げられる教育内容との関係にある程度押さえておく必要があります。

ここで、体験学習をより教育的効果の高いものとするためには、事前・事後学習の内容が重要になってきます。社会教育として実施する場合には、時間的制約も多いので、この事前・事後学習の内容は、指導者や協力者の企画によって様々なパターンがあります。ここでは、想定される2つのパターンをあげておきます。

事前学習として体験学習活動以外の日程確保など、比較的時間的ゆとりがある場合；手仕事という働き方があること、そこに働く人々の思いを学習することによって、様々な職業観育成に向けた学習へと広げることができます。

活動	目標と(時間)	活動内容	支援・教材	指導上の留意点	評価の観点と方法	教科学習とのつながり等
1. 事前学習	様々な手仕事を知る(2)	e 手仕事図鑑でそれぞれ興味関心のある手仕事について、仕事の内容、その人の仕事への思いをまとめ、グループで発表する	e 手仕事図鑑の準備	手仕事のタイトル、内容、人の思いなどが書けるワークシートを準備	仕事の内容を理解しているか ・分かりやすく話ができる等々	参加者の学年に応じて；社会科や道徳など関連する内容
	体験学習への準備(1)	取材先でのルールやマナーの指導 取材道具としてのデジカメ、メモの指導	デジカメ	取材させてもらうという意識の徹底	デジカメの操作ができる メモが取れる	総合的な学習で活かせる知識や技術

事前学習が体験学習の日程の中に組み込まれた場合；  
 時間的制約などから、体験学習活動の同日に事前学習を組み込む場合が多いと思われます。この場合の注意点として、如何に体験学習への興味関心を高めるか、自分の問題意識を持って体験活動に取り組ませるかが重要です。

活動	目標と(時間)	活動内容	支援・教材	指導上の留意点	評価の観点と方法	教科学習とのつながり等
1. 事前学習	体験学習への準備 (1～1.5)	手仕事図鑑づくりとはどのようなことかを先行事例をもとに学習する  訪問する手仕事への興味関心を高める  調べたいことを明確にする  取材先でのルールやマナーの指導 取材道具としてのデジカメ、メモの指導	e 手仕事図鑑の準備  手仕事の音教材  デジカメ	どのようなものを作るための取材かという、活動目的を明確にする  音から想像できる仕事について考えさせる  具体的な質問項目になるよう考えさせる  取材させてもらうという意識の徹底	図鑑のモデルをもとに、手仕事の内容が分かる  自分の考えを、根拠を持って説明できる  具体的な質問項目がまとめられる  等々  デジカメの操作ができる メモが取れる	参加者の学年に応じて；社会科や道徳など関連する内容  総合的な学習で活かせる知識や技術

富山での実践事例；

富山での e 手仕事図鑑を活用した体験活動を例に取り、具体的な留意点について述べておきます。

本活動は時間的制約で、事前学習、体験活動、事後学習を一日で実施。参加者は、小学校5年生が5名、中学生3名の計8名、事前学習の時間は90分でした。

手仕事として、ガラス造形作家を訪問し、働くことの生きがいややりがいについて考えるというのが大きな主題でした。

ここで、事前学習では、子どもたちの手仕事に対する興味・関心を喚起することを目的としました。そのために、まず訪問予定である手仕事の職人さんの職場の音を子ども達に聞かせ、何をしているところか想像させました。子ども達の意見を聞いた後、イラ

ストを配りどんな仕事の音だったかを教えます。この事前活動では音やイラストのみを使用し、あえて職人さんの働いている映像は見せないことで、子ども達に手仕事に対するイメージを膨らませました。

次に、イラストを見せて、手仕事について知りたいこと、分からないことを子ども達に考えさせ、その後の体験学習で職人さんにインタビューする内容を考える活動につなげました。一人2つ程度の質問項目を準備し、ワークシートに記録させました。



また、図鑑に掲載する写真のためのデジカメについて、事前に操作練習を行いました。

さらに、取材先でのルールやマナーについて話し合い、守らなければいけないポイントを確認しました。あわせて挨拶するリーダー、副リーダーを決め、事前に練習を行いました。

次に体験学習の実施計画を立てる

活動	目標と(時間)	活動内容	支援・教材	指導上の留意点	評価の観点と方法	教科学習とのつながり等
2. 体験学習	手仕事に対する理解を深め、働くことの意義について考えを深める  活動内容によって時間は適宜	手仕事をしている職人さんを訪問し、仕事の様子を見学し、その人の仕事への思いや苦労など、あらかじめ準備した質問項目に従ってインタビューする	デジカメで記録する  ワークシートを利用し、メモをとる	手仕事の妨げにならないような配慮  質問を促すファシリテーターとしての役割に徹する  御礼など感謝の気持ちを伝える	積極的に質問する態度  的確なメモ書きや写真  リーダーを中心とした規律正しい態度  職人さんへの感謝の気持ち  等々	総合的な学習で活かせる知識や技術  情報教育での情報の収集活動

富山での実践では、午後の2時間を体験学習に当てました。実際にガラス造形の体験もさせてもらいました。体験することで、興味関心がより深まります。



次に事後学習の実施計画を立てる

活動	目標と(時間)	活動内容	支援・教材	指導上の留意点	評価の観点と方法	教科学習とのつながり等
3. 事後学習	e 手仕事 図鑑活動報告の作成を通して、手仕事への理解を深める  (2)	グループに分かれ、各自が収集した情報を、手仕事図鑑報告に表現したい内容に合わせて整理・加工し、友達に分かりやすい内容にまとめる  各自、報告したい内容を、内容ごとに付箋紙に書き、模造紙の上に関係する内容ごとに並べ、グループの意見を整理する  グループ毎にまとめた内容を発表し、良い点や改善点を話し合う。	付箋紙 模造紙 パソコン	書きたい内容を付箋紙に書き、グループとして伝えたい内容の整理や順番を決める KJ 法的作業について、初めての小学生には具体的な作業の手順を教える  友達の意見や感想を聞くことで、様々な考え方や見方があることを指導する	情報の整理やまとめ、報告内容の企画などを協力して行える  まとめた内容を分かりやすくプレゼンできる  友だちの意見を聞いて、共感や質問を積極的に行う  等々	情報の収集、整理・加工、表現、伝達など情報教育の目的との関連  総合的な学習で活かせる知識や技術

以上、e 手仕事図鑑を体験学習に活かすためのカリキュラムと実施計画の立て方について概説しました。先にも述べたように、社会教育の一つとして体験学習活動が取り入れられることが多いですが、実施主体との関係、時間的制約などから、あまり細かな内容が盛り込めない場合も多いです。特に、小学生が中心の活動にあっては、興味関心を高めること、多様な働き方への共感など、情意面での教育効果を期待したいと思います。



#### 4. 体験学習活動に必要な準備

実際に体験学習活動を行うに当たっては、様々な事前準備が必要になります。指導者は、自身が直接子どもたちを指導するだけではなく、活動に関わる全てのコーディネータとしての役割も担うことになるので、出来れば最低でも2,3名の方に協力してもらい、チームを組織し、組織として活動の計画や調整、実施を行うのが望ましいと思います。

##### 1) 講師・協力員の依頼とチームづくり

参加人数を考慮しながら、直接的な指導を行う講師、講師を補佐し、活動の支援を行う協力員を依頼します。特に小学生が多い場合は、安全への気配りや個別指導などのため、グループ活動で各グループに一人程度の協力員が望ましいです。

##### 2) 体験学習先の決定と調整

- ・活動の趣旨に合う訪問先候補に、主旨を理解してもらい訪問先を決定、日程調整を行います

- ・事前に下見し、訪問する児童生徒の人数や学年、実施計画などを伝え、安全面での配慮や訪問先の要望などを聞いておきます

- ・作業中に写真、映像の撮影を行いたいが可能か
- ・児童生徒からの質問に答えてもらう場を作ることが可能か
- ・作業の体験は可能か、経費が必要か
- ・御礼として、謝金又は菓子箱などの準備

##### 3) 昼食、休憩、飲み物などの準備

- ・どこで、いつ昼食にするか、休憩はどこで取るかなど、一日の行程の中で事前に検討しておく。手配が必要なら手配

##### 4) 傷害保険への加入

- ・不慮の事故や怪我に備え、傷害保険へ加入しておく

##### 5) 機材及び教材の準備

- ・子どもの取材活動に必要なデジカメ、名札等

- ・グループ作業のための模造紙、付箋紙等
- ・活動の記録のためのビデオおよび写真
- ・事前学習に活用する訪問先の音など、学習内容に依存するコンテンツ（事前に図鑑に登録しておく）
- ・学習内容に合わせて、訪問先の手仕事イラスト（事前に図鑑に登録しておく）
- ・学習内容に合わせたワークシート

#### 6) その他

・e手仕事図鑑を活用しての学習又は手仕事図鑑の作成や訪問報告書作成のためのPC環境の準備

- ・写真データを共有するためのPC環境
- ・発表環境(グループでのまとめを模造紙で発表するか電子媒体で発表するかによる)の準備
- ・必要な経費の算出と参加者の経費負担などの検討
- ・参加者のe手仕事図鑑の利用登録

### 5. 今後につなげる

e手仕事図鑑を活用した体験学習活動の目的は、最初にも述べたように、発達段階に応じたキャリア教育への支援、情報化時代に求められる情報の収集と発信能力としての情報活用の実践力を育てる支援、協働作業を通してのコミュニケーション能力や協調性を育てる支援にあります。学校教育カリキュラムのように、体系だった学問に基づく学習ではありませんが、限られた時間の中での体験活動の中に、様々な学習要素が埋め込まれます。手仕事という働き方が、それも様々な分野であること、そこでの働き手の夢や思いを聞くことで、働くことの尊さを実感させ、学ぶ意欲の向上につながることも期待されます。

手仕事を学ぶだけでなく、この活動に参加した子どもたちそれぞれが、手仕事に関する体験を報告しています。手仕事に打ち込む働き手が、皆それぞれに個性に溢れ、夢や希望を持って仕事に打ち込んでいる姿は、これからの仕事を考える上できっと素晴らしい刺激を子どもたちに与えてくれることと思います。家庭や学校や地域で、子どもたちと共に、働くこと、生きることの素晴らしい議論ができることを期待したいと思います。